【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和6年2月8日(2024.2.8)

【国際公開番号】WO2022/230956
【出願番号】特願2023-517606(P2023-517606)
【国際特許分類】
Ｃ０８Ｊ　9/236(2006.01)
Ｂ３２Ｂ　5/18(2006.01)
Ｂ３２Ｂ 27/00(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０８Ｊ　9/236　　ＣＥＲ
Ｂ３２Ｂ　5/18
Ｂ３２Ｂ 27/00　　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】令和5年10月26日(2023.10.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
熱可塑性樹脂を含む熱可塑性樹脂組成物を発泡してなる発泡部材と、熱硬化性樹脂を含む熱硬化性樹脂組成物を硬化してなる硬化樹脂部材と、を備え、
前記熱可塑性樹脂は、窒素雰囲気下、１０℃／分の昇温速度で３５℃から６００℃まで昇温させたときに残渣を生じるものであり、
前記硬化樹脂部材が、燃焼時に酸素遮断性の炭化層を形成するものであり、
前記硬化樹脂部材が、前記発泡部材の少なくとも表面の一部に存在している、難燃性物品。
【請求項２】
前記熱可塑性樹脂が、窒素雰囲気下、１０℃／分の昇温速度で３５℃から６００℃まで昇温させたときの残渣率が１０％以上である、請求項１に記載の難燃性物品。
【請求項３】
前記熱硬化性樹脂組成物が難燃剤をさらに含む、請求項１または２に記載の難燃性物品。
【請求項４】
前記難燃剤がリン系難燃剤を含む、請求項３に記載の難燃性物品。
【請求項５】
前記難燃剤の量は、前記熱硬化性樹脂１００重量部に対して、０．１重量部～２００．０重量部である、請求項３に記載の難燃性物品。
【請求項６】
前記難燃性物品が、放射熱強度５０ｋＷ／ｍ^{2}で２０分間加熱したときの総発熱量が８．００ＭＪ／ｍ^{2}以下である、請求項１または２に記載の難燃性物品。
【請求項７】
前記熱硬化性樹脂がフェノール系樹脂、エポキシ系樹脂およびポリウレタン系樹脂からなる群から選択される少なくとも一種を含む、請求項１または２に記載の難燃性物品。
【請求項８】
前記熱硬化性樹脂組成物がフェノール系化合物をさらに含む、請求項１または２に記載

の難燃性物品。
【請求項９】
前記フェノール系化合物が、一価フェノールおよび／または多価フェノールである、請求項８に記載の難燃性物品。
【請求項１０】
前記フェノール系化合物の量は、前記熱硬化性樹脂１００重量部に対して、０．１重量部～５０．０重量部である、請求項８に記載の難燃性物品。
【請求項１１】
前記熱可塑性樹脂が、ハロゲン化ビニル系樹脂および／またはアクリロニトリル系樹脂を含む、請求項１または２に記載の難燃性物品。
【請求項１２】
発泡部材が発泡粒子で構成される、請求項１または２に記載の難燃性物品。
【請求項１３】
前記熱可塑性樹脂組成物が、輻射伝熱抑制剤をさらに含む、請求項１または２に記載の難燃性物品。